

♪オウゴン♪ 貴人の文
も、お休ませます
♪お休ませます♪

(スペシャル・インタビュー)



三枝成彰

日本から世界へ、あふれ出し光り輝く音を自在に操るコンポーザー

理想にむかって突き進む姿はいつも美しい
ひたむきに、目をきらきらと
まるでおもちゃに向かう子どものようにひたむきに
苦しみが多ければ多いほど
手を離れゆく作品は華麗にはばたいてゆく

●小林明子

TEXT by AKIKO KOBAYASHI

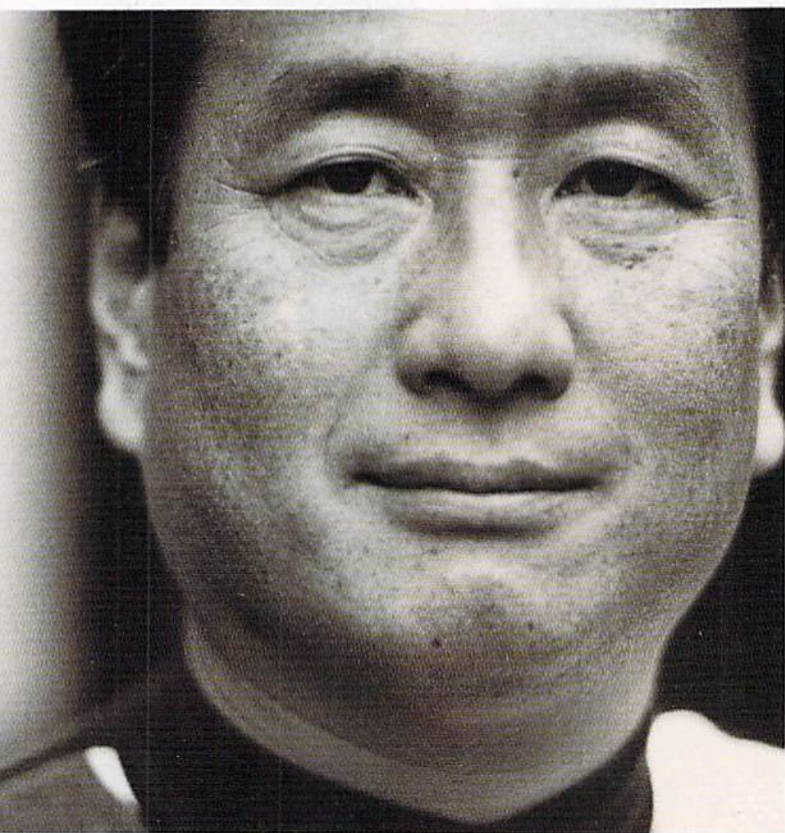
●中嶋隆之

Photo by TAKAYUKI NAKAJIMA

成彰

輝く音を自在に操るコンポーザー

女の人が強くなった？ 僕はそう思わないよ でも京女は特別かな？



1月には大阪シンフォニーホールで日本オーケストラ奏者の最高峰を集めたスーパーオーケストラ「ジャパン・ヴィルトーゾ・シンフォニー・オーケストラ・コンサート」を東京に次いで大成功させた。3月には渋谷のBUN KAMURAオーチャードホールにて相米慎二監督と組み、オペラ「千の記憶の物語」を好評のうちに上演。新しい時代の日本人が楽しめる日本語のオペラと大賛辞を受けている。日本の音楽会に次々と新風を送り込みエネルギーに活動を続ける三枝成彰氏。

「純粋には西宮生まれなんです。でも西宮にいたのは生後40日ぐらいだけだったけど」
「そういう方にとって京都にはどんなイメージがありますか」
「やっぱりすごい所だなあと感じますよ。京都には年に4〜5回来るんですけど、いつも行くお茶屋のおかあさんが、あの家は戦後引越してきた家や、と言うんですね。その戦後が僕なんかだと、ああ第二次世界大戦のことだかと思うけど、おかあさんが言っている戦後は応仁の乱のこと。そりゃ驚きましたよ、基準が違くと非常にショックを受けました。京都の人は物腰は柔らかいけど辛辣だし、他府県の間人が住むのは難しいだろうな」
「演奏や講演なさる時もその独特の」

京都を感じられますか。

「ああ、それはないですね。でもね京都で食べるものは650円ぐらいのお弁当にしても、町のお惣菜屋さんにしても美味しいね。コストパフォーマンスが高いというか、みんな味にも厳しいから、そうでないと生き残れないんだろうね。やっぱりすごい町だね」

不幸のパワーは芸術を生む

CDブック形式の「LOVE IS ONGO (主婦の友社刊)」を説かせていただきました。モーツァルト、ベートーベン、ワーグナーなど大作曲家たちの女性観や恋愛について生き生きと書かれていたのであつという間に読めてしまいました。ただ、あの内容によると偉大な芸術家は悲惨な生活をしてるとか、金銭や女性に恵まれず不遇をかこわなれないとなれないように書かれていたようですが、そんなものなのでしょうか。

「そうですね、幸せな人生についていうのは、何かを生むには都合が悪いことがあるようですね。だからハンディを持つ状況を自分で作る人もいますよ」

「自らを崖っぷちに追いやるような行為ですね」

「そうたとえば、人種的な問題で非常に立場の悪いとこに生まれた人間とか、経済的理由であるとか、身体的コンプレックスを持っているとか。ワーグナーの場合だとすごく身長が低い人だったんですが、ああいう大きな曲を作ったでしょう。ベートーベンもモーツァルトも背は低かった、あまり大きいとかカッコイイ人はいないですね。メ

ンデルスゾーンはすごい金持ちの家に生まれたんだけどユダヤ人だった。マラーも宗教を変えなければならなかった。不本意ながら仕方なく宗教を変えるところはアイデンティティを変えることだから、大きな心の傷として残ったようですね。そのように見えていくと、偉大な芸術家は必ず何かマイナスの部分を持っているように思えます。ただそれをバネに創作を行なったのが彼らのすごいところだね」

「幸せな人生を終えて大成した作曲家っていないものなのでしょうか」

「まずないですね。でもモーツァルトなんかお金に不自由していたと言われているけれども、彼には悪い時でさえ4000万円ぐらいの年収があったんです。これが貧乏と言えるのは難しいです。けれども、4000万収入があっても6000万円必要だとすれば裕福ではないわけだからね。ただ少なくともお手伝いさんはいっぱいいたし、自家用車も持っていた。貴族からすれば大したことはなかったでしょうけど。お手伝いさんの月給がバター1ポンドに卵が数個だったんですから、それからすれば大金持ちですよ」

「日本の高社マンが海外に行ってサラリーマンながらブルツキの家に住んで、お手伝いさんを雇えることと状況が似ていますね」

「そうそう、そういう感覚でしょうね。それなりにリッチだけど、マハラジャに比べたらどうってことない。モーツァルトは貴族並になりたかったんですよ」

「三枝氏が御自身で作曲なさる場合、バネになるのはどういう部分ですか」
「ん、そうですね、まあ金持ちには生まれてないし、今も決している環境

三枝

で時間がたっぷりあるわけではない」

「お忙しいですね。」

「まあ、なぜ忙しいかという生活をするためなんだけど、こういう部分はハンデだね。僕も充分に時間があったお金があつて、ベストコンディションで生活しているわけではないしね」

「でもかえってそんな環境に置かれると何も作り出せない？」

「そうね、何もかも整つて、さあ書いて、と言われてもね(笑)」

女の人が強くなつたとほ慰まないよ

「近ごろよく言われることですが、男と女の力関係が逆転したと。そういう時代風俗と音楽に相関関係はあるでしょうか。」

「僕は女の人が強くなつたとは思わないですよ。限りなく男女同権に近づいてきたとは思つけど、それでも8対2だったものが6対4になつた程度で、まだまだ5分ではないと思つてますよ。社会的にみれば実権は男性が取つていて、まだ女の人

は弱いんじゃないかな」
肉体的にも精神的にも？

「肉体的にはわかりませんが、精神的には女性のほうがタフでしょう。ただ現実には生活をはじめ夫婦になると女の人はとつても強くなるけど、恋愛中は5分かな、男のほうが少し強いかな。女性が強くなつたというのはマスコミが書き立ててるんじゃない？」

「でも特に20代の男性は頼りなくなつたように思ふんですけど？」

「男は昔から頼りないですよ。だって同じ年なら圧倒的に女の方がしつかりしているもの。ですから女子高校生



を操れる男は30だし、女子大生なら40代でないとしためかもしれない。かつては5〜6歳離れているのが良いと言つたけど、今は10歳以上離れてても男の方が劣勢じゃないかな。ということ

は、やっぱり女の人がしつかりしてきたということかな(笑)。まあ、でも男も40、50になりやしつかりするんですから少し待つてつて感じてね」

「そういう時代と芸術は関係がある？」

「歴史的にみると、世の中が平和になると女の人が強くなる。平和な時代が続くということは音楽や芸術を楽しむ余裕があるということですから。女の強い時代は芸術が進行するということ。好ましい傾向ですよ。ますます女の人が強くなりやいんじゃないですか(笑)」

「そうかもしれないですね。」

ミュージカルもオペラも源は同じです

「一般的にミュージカルは比較的なじみがあるのですが、オペラはどうもとつきにくいという固定観念があると思うのですが。」

「残念ながらそうですね。本当はオペラとはイタリア語で書かれたものを用いんです」

「のみをですか？」

「イタリア語で書かれたもののみをオペラという時代があつたんです。モーツアルトの頃にはイタリア語を理解できるのはインテリか貴族だけだった。

貴族社会の音楽がオペラで、イタリア語のわからない民衆のためにドイツ語で、やや大衆的に歌に台詞をませて上演されていたのがミュージカルへと発

展したわけです。さらにイギリスではヴィクトリア時代にオペラが退廃的だとして上演禁止になるんです。それに当時の音楽家たちが抵抗して、芝居の中に歌を入れりやいんだらう」とこちからもミュージカルに発展していった。でも芝居があつて歌があつて、というようなのは各国であつたようですよ」

「だからオペラは大衆にはなじみにくいわけですね。」

「でもイタリアではオペラは大衆のものですし、ドイツでもそう。8割近くがドイツ語に翻訳されて上演されていますから。イギリスはイタリア語半分、英語半分。アメリカは絶対英語にしないんです。つまり音楽の後進国ほど外国語崇拜が強いから翻訳をしない。まあ、ドイツやイタリアは音楽先進国で、アメリカはいわば後進国なんですよ」

「その点で日本は？」

「戦前は浅草オペラなんか盛んで全部日本語で上演されていた。その時代には長屋の八つっあん、熊さんもオペラが好きだった。ですから本当の意味でオペラが普及するには日本語版の良い翻訳ができることが不可欠です」

「先ごろ再演なさつた『千の記憶の物語』も日本語での上演でしたからね。」

「そう。日本語で、誰が聴いても帰りに一人で5000円/これは破格のチケット値段です。二人で1万円、帰りに飯を食つても2万円/これは値打ちがある/」を目標にしているんです。」

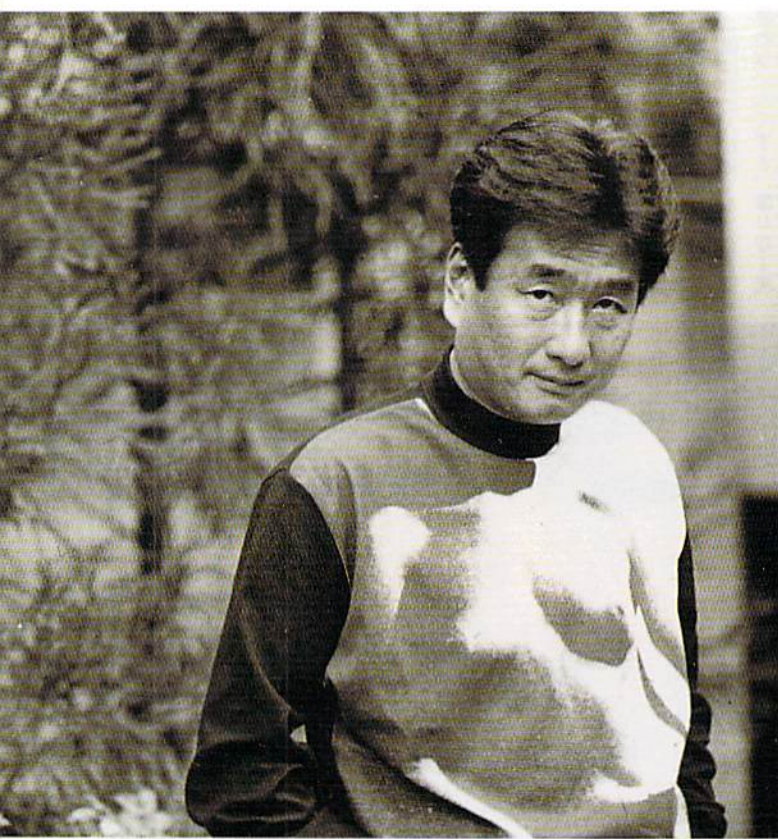
「本当ですね。でも上演は東京だけでしたね。」

「そうなんです。関西にもつてゆくのはスポンサーがつかないとね(笑)。本当にお金がかかるんですよ。全入場料でも必要経費の2割にしかならない。

金と製品だけでは世界は認めてくれない文化不毛の地ではね…。

成彰

輝く音を自在に操るコンポーサー



あとの8割はやはりスポンサーがつかないといけないです。だから関西でもスポンサーがつけばいつでも来たいんですけど、今のところは難しいですね」
「私たちがもっと盛り上げないといけないですね」

「本当だ。やっぱり関西は文化先進地域でありながら企業が。ええ格好。をしたがらない。つまりケチなんです。お金持ちの旦那衆は関西の方が多いのかもしれないんだけど、みんなとても実質的」

「すごく現実的で、実際に儲けのない話には投資しない」と。
「そうそう、そうなんです。昔はバツとスポンサーになる気風があったと思っただけ。もしかして関西が沈没していくとしたら、そのへんが大きい原因になるかもしれないですね」
「そうなるよオベラだけの問題ではないですね」

「文化をもたない地域からは人が離れてゆく傾向があるんです。つまり文化は人を集める蜜のようなもの。関東にはその蜜が多いけれど関西には減ってきている気がする。それはすなわち企業の首をも絞めていることなんです。つまり人材がないとか消費が落ち込むとかいう意味でね。今や大阪は横浜に抜かれて日本第3の都市になってしまったけど、このままでは川崎に抜かれてしまうよ。やっぱり大阪は関西の星ですからね、がんばってもらわないと。だって、新しい芝居が1000始まるよ」と99が東京で、1だけが大阪での上演。関西の人には蜜が少ないうから、

若し人達が東京の大学に入って東京で就職して戻りたがらない。活性化の面からも問題アリでしょう？」

「関西の企業には耳の痛い話ですね」

「次のバブル、早く来い！」

「ところで、今後予定されている活動予定をおうかがいしたいのですが。」「次のオベラも書きたいですし、海外でも公演もしてみたい。でもそれにはスポンサーがつかないとねえ(笑)。こう不景気じゃあね、次のバブルが早く来ないかと待ってるんです。バブルって悪くばかり言われてますけどね、人間は浮かれる時があつていいはずなんです。そういう時に文化が生まれてくるんで、バブルをおそれてはいけない気がするんです。歴史的にみても文化を育てたのはみんなバブルの時代」

「まったくそうです」
「日本人の体質として、いいことが続いたらあかんのところがうかなりと思うってしまっただけです」

「やっぱり二宮金次郎の精神が染みついてしまっている(笑)」
「そういう所に本当の文化を根づかせるのは難しいですね」

「でも日本が世界に文化を発信しない限り認めてもらえないというか、生き残れないことになるでしょうね」
「お金と製品の方だけではね」

「京都に幕府をつくったのはみんな文化人で、少なくとも木曾義仲ではなかった。源頼朝しかり、足利尊氏しかり政権をにぎった人間はすべて文化人。文武両道、両方を備えた人であつて

決して新田義貞ではない。世界の中で日本が木曾義仲になるか頼朝になるか、大きなわかれめですね。戦に強いというよりは経済力があるということだけ、文化をもたなかったために次第に細っていった歴史上の人物は多いですよ。日本での京都は世界でのヨーロッパ、つまり公卿は西洋の貴族です。今日の文化はヨーロッパが作り上げてきたものばかり。この人たちが日本の文化を、自分たちが培ってきた文化と同じレベルで認めないかぎり、所詮日本は極東の島国で終わってしまいかねないですからね」

「いわゆる成り上がりですよ」
「そう排除されてしまっただけですよ。そうならないためには確固たる文化をもつこと。世界に誇れる文化を育てていけるか否かが、今後日本が生き残れるかにかかってくるでしょうね。まあ瀬戸際ですね。企業がお金を出すことは一社の利益だけにとどまらず、延いては自分の国を救うことになる。それが最終的には自社の製品を世界で販売することの成功へとつながっていくと思っただけです」

「ものことはすべて連鎖しているという事です」
「そう。だからね、すぐには利益にはならないだろうけど、長い目で見てみると日本で文化を育てる努力をしてほしいのが本音ですね。だって才能はあるけれど、生活が成り立たないから芸術の道を断念するというケース、本当にたくさんありますから」

「私たちがもつと自国の文化を愛し、育てる努力をして行かないと心おぼしきと感じます。今日はどうもお忙しいなか、ありがとうございます」

「ありがとうございます」

TOWER RECORDS

今月の

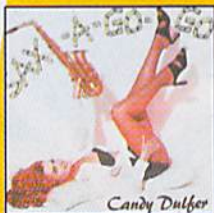
これを
聴かないで
どうする!!

By 永岡正直 (京都店店長)



STING / TEN SUMMONER'S TALES ¥1,850

ファン待望の2年振りの新作。前作の内省的な世界とは違う、ノリの良いポップなナンバーがズラリ。この春一番の超強力量。



CANDY DULFER / SAX-A-GO-GO ¥2,090

プリンスも絶賛する美人サクソフレイヤーの2ndアルバム。本作ではJB'sとの共演もあり、よりファンキーにグレードアップ。

NEWS

京都店が大きくなって
リニューアルオープン

定評ある直輸入盤の在庫はもちろん、国内アーティストもさらにワイドに充実しました。

SALE

BACK TO SCHOOL MUSIC SALE
3/25(木) ~ 4/7(水)

レッドとグリーンのタグで表示されたバジェット商品約10,000タイトル全てを¥200 オフ! 歴史的な名盤や必聴盤を揃える絶好のチャンス!!

京都店

河原町ビブレ6F Tel. 075-212-7058

OPEN : A.M.11:00 - P.M.8:00

大阪店

心齋橋アメリカ村 Tel. 06-211-2997

OPEN : A.M.11:00 - P.M.9:00

TOWER RECORDS

L.A. CHICAGO BOSTON NEW YORK LONDON
SAPPORO SAPPORO CLASSICAL ANNEX SENDAI
NIIGATA IKEBUKURO SHINJUKU SHIBUYA
HACHIOJI YOKOHAMA KAWASAKI NAGOYA
KYOTO OSAKA HIMEJI HIROSHIMA

三枝

日本から世界へ、あふれ出し光り

さえぐさ ● しげあき

1942年東京生まれ
東京芸術大学大学院在学中に安宅賞を受
ける。
数多くの映画、テレビ音楽のプロデュー
スで、芸術院賞や日本アカデミー賞音楽
部門最優秀賞などを受賞。
モーツァルトの未完成曲の補筆・完成を
日本人としてはじめて依頼され、1991年
モーツァルトの命日にザルツブルグにて
初演。
代表作としてグランドオペラ「竜恋語」、
オペラ「記憶交換」、オラトリオ「ヤマトタ
ケル」、NHK大河ドラマ「太平記」など。
現在は日本初のオペラ「忠臣蔵」の海外公
演実現にむけてプロジェクトを進行中。